

令和8年3月13日発行（第200号）

こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター
岩泉普及サブセンター
いわてアグリベンチャーネット

TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



年度末の御挨拶

宮古農業改良普及センター 岩泉普及サブセンター 技術主幹兼所長 及川 修

令和7年4月に閣議決定された、新たな「食料・農業・農村基本計画」では、5年間の農業構造転換集中対策期間を設け構造改革を進めることとされ、同年7月に策定した「いわて農業生産強化ビジョン」では、10年後に目指す姿と農業生産の目標が示されました。

一方、農業の現場では、生産コストの上昇、農業従事者の減少、異常気象による不安定生産等、依然として厳しい農業情勢が続いております。

そのような中、普及センターでは、農業経営者や生産組織等への個別巡回指導、作目ごとの栽培管理指導会・研修会等を開催し、「地域の中核となる経営体の育成」「規就農者の確保・育成」「水稻・畑作物の生産力向上」「野菜生産体制の強化」「畜産の産地力向上と担い手育成」を重点課題とし、関係機関・団体と連携し普及活動を行いました。

今後も、生産コスト低減対策、労働力の確保対策、異常気象への技術対策等、困難で重要な課題解決に向け、普及センターでは現地での指導活動を基本に関係機関・団体と連携し、各種実証・研修会の開催等による情報発信・技術向上を図り、現場での最適解を導き出し農業経営者の所得向上に取り組みますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

農業農村指導士の新規認定者と任期満了者のご紹介

2月3日に盛岡市で「岩手県農業農村指導士認定証書交付式・感謝状贈呈式」が開催されました。式では、岩泉町の山屋祐太さんが青年農業士として新たに認定されたほか、宮古市の上山則夫さん（農業農村指導士）と、岩泉町の合砂哲士さん（青年農業指導士）が任期を満了し、これまでの活動に対し、感謝状が贈呈されました。以下、新規認定者および任期満了者の皆さんをご紹介します。

◇ 新規認定者 山屋 祐太 さん（酪農・和牛繁殖）

中高生の農作業体験の受入や、地域の生産部会・青年団体での役員活動等が評価され、青年農業士として新たに認定されました。今後の更なる活躍が期待されます。

◇ 任期満了者 上山 則夫 さん（野菜・水稻）

研修生の受入など新規就農者の育成に尽力されたほか、JA 新いわて稲作部会宮古支部長をつとめるなど、地域のリーダーとしてご活躍されました。

◇ 任期満了者 合砂 哲士 さん（肉用牛）

日本短角種の肥育牛を放牧することで保安全管理に貢献するとともに、岩泉町農村青年クラブ会長等を歴任し、農村青年活動の活性化に尽力されました。 【担当：昆野（有）】



新規認定者の皆さん
後列右から2番目が山屋さん



任期満了者の皆さん
後列右から2番目が上山さん
// 4番目が合砂さん

令和7年度 宮古地方農業賞受賞者のご紹介

令和7年度の各農業賞の受賞者が決定し、2月14日に開催された宮古地方農業者の集い2026の場で表彰が行われました。受賞された皆様、誠におめでとうございます！

宮古地方農業賞

(1) 園芸部門

この部門は、各品目において、販売額、単位面積当たりの出荷量、販売単価を点数化し、過去の表彰実績も考慮して選考されました。

区分		市町村	氏名
最優秀賞(ピーマン)		田野畑村	中村真文
優秀賞	ピーマン	宮古市	松館 怜
	きゅうり	宮古市	佐藤 竜太
	ブロッコリー	田野畑村	(株)佐々木農場
	ほうれんそう	—	(該当なし)
	だいこん	田野畑村	佐々木 利明
	畑わさび	岩泉町	根木地 富男
	その他(おくら)	田野畑村	根木地 喜則
	その他(りんどう)	宮古市	工藤 正行
その他(小菊)	宮古市	中村 一彦	



【 表彰式の様子 】

(2) 畜産部門

この部門は、各部において、技術評価などを点数化し、過去の表彰実績も考慮して選考されました。

区分		市町村	氏名
酪農の部	最優秀賞	岩泉町	中村 隆幸
	優秀賞	岩泉町	千葉 正勝
和牛繁殖生産率の部	最優秀賞	岩泉町	佐々木 一二
	優秀賞	宮古市	中村 一豊
和牛繁殖分娩間隔の部	最優秀賞	宮古市	畠山 善孝
	優秀賞	宮古市	内館 勝則
短角繁殖の部	最優秀賞	岩泉町	合砂 丈司
	優秀賞	宮古市	前川 和幸

【担当:山本】

令和7年度ブロッコリー実績検討会・栽培指導会を開催しました！

JA 新いわて宮古地域野菜生産部会ブロッコリー専門部は、1月27日に岩泉町内で、令和7年度春ブロッコリー実績検討会・栽培指導会を開催しました。

当日は生産者や市場、関係機関など18名が参加しました。検討会では、JAから出荷・販売実績と今後の課題、普及センターから栽培経過、農林振興センターから流通改善の実証、市場から他産地の動向についてそれぞれ説明がありました。

令和7年の春ブロッコリー栽培は、作付面積が増加したものの、生育初期の低温や栽培後半の高温乾燥の影響で生理障害や生育不良が多く見られたことから、出荷量は前年を下回り、栽培が難しい年となりました。

また、実績検討会に続き8年度の栽培に向けた栽培指導会も併せて開催し、安定生産に向けた意識統一を図りました。生産者からは栽培や販売に関する多くの意見・要望が寄せられ、収量向上に向けて活発に議論が交わされました。

【担当:熊谷】



新規食の匠も加わり「食の匠の技公開講座」を開催

宮古地方食の匠の会(熊谷裕美子会長)は、恒例の一般消費者等15名を対象とした標記公開講座を2月19日に宮古市の山口公民館で開催しました。

実習料理は、「するめの酢漬」と今年度認定された「いもだんす」としました。当日は食の匠10名が集合し、「するめの酢漬」は鈴木協子さんが、「いもだんす」は畠山和子さんが中心になって実演を披露し、他の食の匠が受講生の調理をサポートしました。

今回は実習料理のほかに、斎藤みつ子さんが山田町の郷土料理「まめっこ汁」(いんげん豆の入ったけんちん汁)を用意し、一緒に試食しました。

受講生からは、「するめの酢漬は幼少期に祖母に作ってもらった料理で、今度は祖母と一緒に作ってみたい」「作って食べることを通じ、これからも料理を受け継いでいくことが大切だと感じた」「地

域の方々や友人にも教えて実践してみたい」といった感想が述べられました。

【担当:佐藤】



「するめの酢漬」の実習



「いもだんす」の実習

【水稲】 温度と湿度に注意し、健苗育成を！

令和7年は4月中旬から5月下旬にかけて多雨と日照不足が続き、4月中旬の高夜温も重なったことで、苗の徒長や充実不足が見られました。また、一部ハウスでは、細菌病やばか苗病の発生も確認されました。

県病虫害防除所では、①籾におけるもみ枯細菌病の検出率が直近10年で最高だったこと、②3か月予報で4月(育苗期間)の気温が平年より高い予報であること等を理由に「育苗期に細菌病が多発するおそれがある」として、令和8年2月13日に注意報を発表しました。

育苗期は次の点に注意して、健苗育成に努めましょう。

(1) 温度：以下の表と温度計を参考にハウス内の温度を管理しましょう。

稚苗	緑化期	硬化期
日中	20~25℃	
夜間	15~20℃	10~15℃

中苗	緑化期	硬化期前半	硬化期後半
日中	20~25℃		15~20℃
夜間	5~10℃		



図：細菌病の病徴(枯上がり)

(2) 湿度：過かん水は病気の発生につながるため、かん水は基本的に1日1回、朝にしましょう。プール育苗の場合、1回目の入水は緑化終了後2~3日以内に行い、2回目の入水は1葉目が開き、2葉目が出始めた頃に行いましょう(水位：1回目は培土より下、2回目は培土より上)。

【担当：川原田】

“山火事を起こすも防ぐも私たち” 大切な森林を守るのは私たちの『用心』です

令和7年、県内の林野火災は27件発生し、焼損面積は3,702haとなりました。特に大船渡市の火災は3,370haに及び、国内でも最大規模となりました。宮古管内(宮古2件、山田1件、田野畑1件、岩泉0件)でも4件発生しています。

県では、2月26日から5月31日までを「山火事防止運動月間」としており、重点的な対策を実施しています。大切な森林を次世代へ引き継ぐため、以下のルールを徹底しましょう。

- ①火入れは市町村の許可、野焼き(たき火含む)は消防への届出を徹底
- ②消火水・消火器を準備、作業中は目を離さず、終了後は灰まで完全消火
- ③たばこの投げ捨て・火遊びは厳禁

春先は乾燥と強風で火の粉が飛び、延焼が急拡大します。林野火災警報発令時は火入れや野焼きも禁止されています。あわせて注意報の発令時や風の強い日は火を扱わず、煙や火を見つけたら早めに119番通報をお願いします。大切な森を守りましょう。

【担当：戸田】

(編集後記)

時の移ろいは早いもので、3月となり令和7年度も終わりを迎えます。この「耕耳苑」では、地域の農業者の皆様のご活躍される姿や普及センターでの取組等をお伝えしてきました。1年間、ご愛読いただきありがとうございます。来年度もタイムリーにわかりやすくお伝えできるよう一層頑張りますので、引き続きご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。(山本)